

平成27年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立今泉中学校

| | |
|--------------------------|------|
| 全国学力・学習状況調査について | P. 1 |
| 「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 2 |
| 「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 3 |
| 「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 4 |
| 「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」 | P. 5 |
| ご家庭で取り組んでいただきたいこと | P. 6 |
| (資料) 学習・生活習慣と学力との関係 | P. 7 |



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。

なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

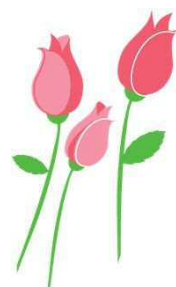
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 学習指導要領の領域における「読むこと」「話すこと・聞くこと」が特に優れている。
- 極端に正答率が低い設問はなく、無解答率が高い設問も少ない。無解答率の低さは、生徒たちの誠実に問題に取り組もうとする姿勢を表している。
- 「スピーチの途中で聞き手の反応を見てとった対応として適切なものを選択する設問」は、特に正答率が高い。相手の反応を踏まえて話す姿勢を理解している生徒が多い。
- 「漢字の読み」に関しては、正答率が高い。

《努力を要する所》

- 全体的によくできているが、「漢字の読み」と比較して、「漢字の書き」の正答率が低く、無解答率も高い。
- 「単語の種別」の、知識の定着を問う設問に対する、正答率が低めである。
- 「手紙の書き方を理解して書く」という設問では、単発的に指導しているが、日常的に手紙を書く場面を設けていないことが、正答率の低さにつながっている。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 学習指導要領の領域における「話すこと・聞くこと」に関する設問の正答率が高い。
- 「話す・聞く能力」で、特に、「効果的な資料を作成し、活用して話す設問」の正答率が高い。
- 全体的に無回答率が低い。特に選択問題では、8割以上の問題で無解答率が0%である。
- 「読む能力」全体では、十分ではないものの、「読む能力」の「表現の工夫について自分の考えを持つ」については、特に優れている。



《努力を要する所》

- 記述式問題の正答率が低い。特に、「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く設問」の無解答率が高く、記述力を向上させる必要がある。
- 「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く設問」の正答率が低い。資料を活用して内容を捉えるための読解力が課題である。

今後の具体的な取組

- 「話すこと・聞くこと」の継続指導を毎学期、「相手の反応を踏まえて話す」指導を一定期間、毎授業行った。「スピーチ」や「話し合い活動」で学んだ「話す・聞く」の定着が結果にも表れていることから、「スピーチ」や「話し合い活動」は継続して行う。
- 毎時間「漢字小テスト」を実施し、「漢字まとめテスト」も定期的の実施している。その成果として、「読み」の定着は表れている。「書き」が十分ではないので、「文脈に即して漢字を正しく書く」能力を定着させていく。
- 「単語の分類」「文法」に関しては、基礎問題に繰り返し取り組み「品詞」として適切なものを判断する能力を身につけさせていく。
- 文章を書く際の注意するポイントなどを示し、授業内で課題文を書く時間を設定していく。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 文字式や方程式に関する問題の正答率が高い。
- 同位角の意味を理解している生徒が多い。
- 覚えた三角形の合同条件を、証明の中で適切に使用できる生徒が多い。
- 「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」のいずれの項目についても、平均正答率が高い。
- 全体的に無解答率が低い。

《努力を要する所》

- 四則演算の計算規則が身に付いていない生徒の割合が高い。
- 文章から方程式を立てる力が弱い。
- グラフを読み取る力が弱い。
- 二元一次方程式の解を座標とする点の集合は直線になることを、あまり理解できていない。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 数の性質を説明する問題に関しては、具体的な数で考察の対象を明確に捉えることができ、かつ、それを一般化して文字を使って説明することができる。
- 図形の証明問題に関しては、証明された事柄から新たな性質を発見することができ、更に、条件を変えた証明にも対応することができる。
- 2つの数量関係が比例であることを理解できる生徒が多い。



《努力を要する所》

- 小学校5年生で学習する割合計算を苦手とする生徒が多い。このことが、「評価の観点」の「数学的な計算技能」について、平均正答率が低い主因となっている。
- 平行四辺形になるための条件を、図形のなかで適切に使用する力が弱い。

今後の具体的な取組

- 授業のなかで、四則演算の計算規則について振り返る機会を設けていく。
- 計算すること、公式にあてはめることに加え、考える問題にもより多くの時間を割いて、授業内容のバランスを改善していく。
- 学びあい活動や発言する機会を増やし、説明したり意見を発表したりする活動を充実させていく。

理科に関する調査結果

《優れている所》

- 自然事象についての知識・理解が優れている。特に、塩化ナトリウムの化学式を選ぶ問題や、天気図から風力を正しく読み取る問題の正答率が高い。
- 実験の結果やグラフを分析、解釈する問題での正答率が高い。このことは、グラフの読み取り方や、実験結果を分析、解釈する方法が身につけていることを示している。
- 電磁石を動かさずにスイッチを入れたり、切ったりしたときの磁界の変化を説明する問題の正答率が高い。
- 見いだした問題を基に適切な課題を設定することができる。
- 凸レンズによる像のでき方について理解している。

《努力を要する所》

- 気象に関する問題で正答率が低い。特に風向計の使い方や、雲のできる仕組みなどの理解が低い。
- 音に関する問題の正答率が低い。
- 他者の考察を検討し改善する問題や実験を計画する問題で正答率が低い。他者との討論や意見の交換を授業中にもっと行う必要性がある。

今後の具体的な取組

- 実験において、小グループでの話し合い活動などを今まで以上に取り入れ、他者との討論や意見の交換を行う場面を増やす。
- 基本的な知識がしっかりと定着するよう、授業改善に努めると共に小テストなども実施していく。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「学校の授業以外で、月～金曜日に1日あたり1時間以上勉強している」と答えた生徒が全体の8割を示し、県・全国平均と比較しても多い。
- 「授業の中で分からないことがあったとき、授業中や授業後に先生に尋ねに行く」と答えた生徒が全体の高い割合を示し、その他「友達、家の人、学習塾の先生などに尋ねに行く」生徒も多く、分からないことをそのままにする生徒がとて少ない。
- 「読書は好き」と答えた生徒が全体の7割強を示し、県・全国平均と比較しても多い。

《課題と思われる所》

- 「家で、自分で計画を立てて学習している」と答えた生徒が全体の4割強であり、学習塾や家庭教師に教わっている以外の時間を、自ら計画し学習に取り組むことができていない生徒が多い。

生活について

《よかった所》

- 「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒が全体の8割以上、「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と答えた生徒が全体の9割弱を示し、県・全国平均と比較しても学校・学級での生活に満足する生徒が多い。
- 「自分には、よいところがある」と答えた生徒が全体の7割を示し、県・全国平均と比較しても自己肯定感の高い生徒が多い。

《課題と思われる所》

- 「普段、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間」「携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間」が、全国平均を大きく上回っている。
- 「地域の行事に参加している」と答えた生徒が全体の4割強程度であり、全国平均を大きく下回っている。

今後の具体的な取組

- ◇生徒の興味関心を惹き付ける魅力的な授業を目指し、意図的・計画的な指導を継続して行う。
- ◇学習が遅れがちな生徒や、学習内容の定着が十分でない生徒に対しての補助指導や丁寧な声かけ・相談等を継続して行う。
- ◇全校職員で校内研究テーマである「自分を大切にし、他の人を大切にする心を育む学習実践」をさらに進め、豊かな心を育てる指導を目指す。
- ◇情報リテラシー教育をさらに進め、情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばすこと。また、保護者会や学校便り等で、家庭への協力を繰り返し呼びかけていく。
- ◇適切な人権意識の育成を目指し、入学時より生徒に指導してきた「権利と義務」について継続して指導する。
- ◇学校だけでなく、地域や家庭にも情報を発信し、共に今泉中学校の生徒の育ちを願い、その実現を目指す。

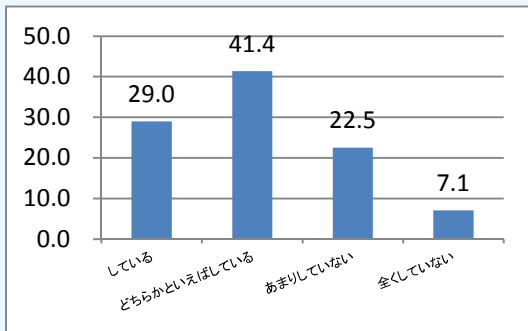
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「家庭で学力を育てる4項目」をまとめました。ご家庭の状況にあわせて、できることからぜひ始めてみましょう。

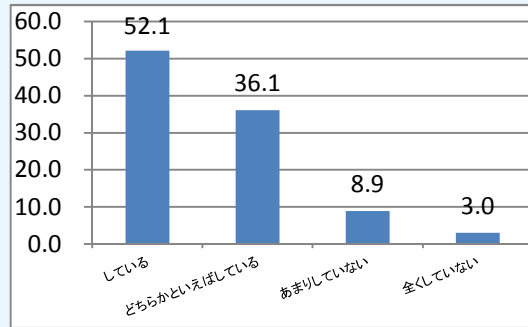
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「早寝・早起き・朝ご飯!」という合い言葉を聞いたことがありますか?平成22年度から「えびなっ子プラン」として平成29年度まで市をあげて実現に向けて取り組んでいる内容です。ご家庭での協力をお願いします。

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



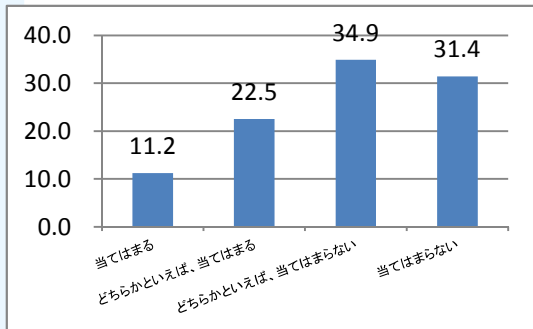
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



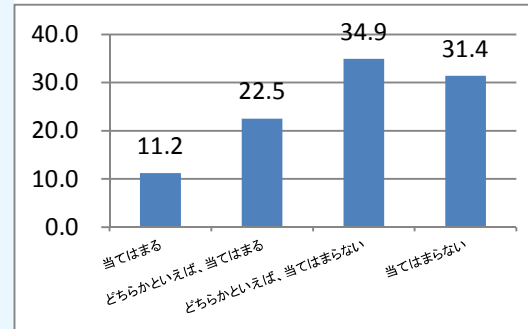
2 地域の活動には、家族で積極的に参加しましょう。

経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われていています。近年、地域におけるボランティアや市民活動が新たなつながりとして増加傾向にあります。さらに、少子高齢化核家族化、地域の教育力の低下への対応として、地域が果たす役割への期待が大きくなっており、地域のつながりの重要性がますます高まっています。

今住んでいる地域の行事に参加していますか



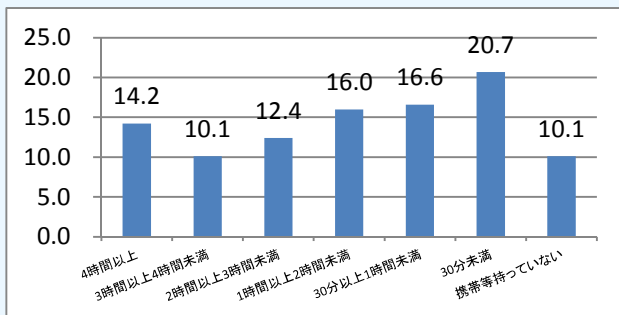
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



4 使用時間をきめてしっかり守りましょう。

1日当たりの使用時間をきめて使わないと、なかなかやめられないものです。また、SNS(ソーシャルネットワークサービス)でのトラブルにも気をつけましょう。

普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



棒グラフは、各設問の回答率を表しています。
すこしずつ、できることから始めてみましょう。



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

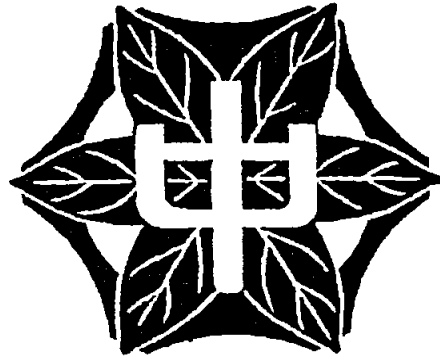
- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月